

学長告辞

ようやく春の訪れが感じられます本日ここに、ご来賓ならびに関係各位のご臨席のもと、佛教大学通信教育課程、第15回前期大学院学位記、第59回前期卒業証書授与式を挙げていただけますことは、大きな喜びであります。卒業生／修了生の皆さん、本当におめでとうございます。皆さんの卒業／修了を、佛教大学関係者一同、心からお祝い申し上げます。

卒業生／修了生の皆さんが喜びの日を迎えることが出来たのは、お一人お一人の努力の賜物であることはもちろんですが、それに加えて皆さんを支え、皆さんを温かく見守ってこられたご家族や保護者、友人の方々などのご理解やご支援あつてのことです。ご家族など関係されます皆様には、今日までのご苦労に敬意を表しますとともに、心よりお喜びを申し上げます。

本日、卒業／修了されます皆さんは、専攻や学部、学科、課程など、学修方法や学ばれた専門領域にそれぞれ違いはありますが、全員がこの佛教大学で一定の期間を過ごされ、本学の建学理念である仏教精神に基づいて、また法然上人の心を心とする大学として、様々な形で展開・提供されます教育により、「佛教大学人」として備えていただくべき専門性や人間性を、しっかりと身につけていただいたものと考えます。

さて、二週間前の3月11日、私たちは、2011年に発生した東日本大震災から丁度四年目を迎えました。本日卒業される皆さんの中には、震災後に本学に入学された学生も含まれていると思います。震災後の四年間を佛大生として過ごされたわけですが、今あらためて、あの震災の時に、またその直後にそれぞれが何を考え、どのような想いで未曾有の災害と向き合ったかを思い出してください。復興はいまだ道半ばであります。一人ひとりが震災直後の想いを再確認しながら、あの痛ましい災害を風化させることなく、教訓として活かしていかなければなりません。

また、東日本大震災以後も、各地で自然災害や人災などが続発しており、昨年夏には広島で水害が、秋には御嶽山の噴火で多くの尊い命が失われました。被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げます。さらに世界に目を向ければ、世界各地で今現在も紛争が継続しておりますし、悲惨なテロ行為なども私たちと無縁ではなくなりました。私たちは、私たちを取り巻く社会、世界の現状をしっかりと認識し、危機に対応できる力を、危機を乗り越え希望を持って前に進むことのできる勇気とを身につけなければなりません。本学は、大学としての使命を踏まえながら、必要とされる取り組みを、多くの皆さまと力を合わせ、継続していきたいと考えます。

そして、このような時代や状況であるからこそ、自分自身をしっかりと見つめつつ、生まれてから死ぬまでのライフステージの中で、様々な悩み苦しむ人々の存在をしっかりと捉え、そのような人々のために活動し、社会に貢献できる人材として、皆さんには本学を巣立っていただきたいと思います。佛教大学で学ばれ、身につけられたすべての力を存分に発揮され、素晴らしい人生を送られるとともに、社会の様々な場面で活躍されますことを祈念いたします。

本日をもって、卒業生／修了生の皆さんの、佛教大学での学びは一旦終了することになりますが、それぞれの人生における学びが終わるわけではなく、生涯にわたる学習はこれからも続いていくものと思います。私たちは、100年を越える本学の歴史と伝統を踏まえながら、困難な社会状況においても、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を培うことのできる学習の場を提供し、生涯学習社会の実現に向けた取り組みを積極的に推進してまいります。

皆さんお一人お一人が、社会の様々な立場で活躍される過程において、もう一度、本学を訪れたいと考えられた時、あるいは更なる学習を本学で行いたいと思われた時には、いつでも大学においで下さい。私たちはいつでも皆さんの再訪をお待ちしております。

あらためて、皆さんの卒業／修了を心から祝福し、告辞といたします。

卒業／修了、おめでとうございます。

平成 27 年 3 月 25 日
佛教大学長 山極 伸之